

定員・参加費・申し込みについて

定員	100名	申込期間	2016年1月5日(月) ~ 2016年2月15日(月) (それ以前は受け付けません) (定員に達し次第受付終了いたします。)
参加費	医師・歯科医師：6万円、医療従事者・教育者・治療教育者：4万円(2泊3日7食付宿泊費込)。個室希望の方は別料金がかかります。数に限りがありますが希望の方は申込時にご記入ください。早割制度があります。(申込書参照)		

参加申込書 [2016年2月15日 〆切]

所属と該当する参加費には☑を入れ、希望の芸術体験とグループワークも記載し、**もれなく**ご記入ください。

セミナーの性質上、各職種間のバランスを考慮し参加の確定が遅くなる場合もありますので、予めご了承ください。

申込後、振込先をお知らせします。

【氏名】	ふりがな	【職種】	[FAX]
		【携帯電話】	【電話】
【住所】	〒 (-)		※郵送物を送付する場合があります。
【E-mail】	@		
【所属】	<input type="checkbox"/> 日本アントロポソフィー医学のための医師会 (医師、歯科医師、薬剤師、その他：)		
	<input type="checkbox"/> 看護職・芸術療法・オリエントミイ療法関係団体 (団体名：)		
	<input type="checkbox"/> 日本ヴァルドルフ学校協会 (学校名：)		
	<input type="checkbox"/> 日本シュタイナー幼児教育協会 (園名：)		
	<input type="checkbox"/> 全日制学校以外の教員 (クラス/団体名：)		
	<input type="checkbox"/> その他 ()		
【参加費】	<input type="checkbox"/> 60,000円【医師/歯科医師】		<input type="checkbox"/> 40,000円【医療従事者/教育者】
	A <input type="checkbox"/> 1月31日(日)までに申し込む方は、早割りとして上記参加費より2,000円引きになります。		
	B <input type="checkbox"/> 5月3日、昼食を持参する方は、上記参加費より2,000円引きになります。(2月15日までに申し込みの方のみ)		
	合計金額	円 (A、Bに該当される方は差し引いた金額を記入してください)	
【希望】	グループワーク 第1:	第2:	第3:
	芸術活動 第1:	第2:	第3:
	1つのグループワーク、芸術体験を3日間通して出席いただけます。第3希望まで必ず記入してください。		

このセミナーに期待する事、参加理由などご自由にお書きください。

お申し込み・お問い合わせ

必要項目を全てに記入後、FAX、Eメールのいずれかでお申し込みください。折り返し事務局より連絡いたします。申し込み締め切り日を過ぎても連絡がない場合はお問い合わせください。

日本アントロポソフィー医学のための医師会 事務局(井上)
〒224-0013 横浜市中区みなとみらい3-3 すみれが丘ひだまりクリニック内
Fax: 045-592-0067 E-mail: qqnf5rk50@jupiter.ocn.ne.jp

アントロポソフィーに基づく

医療と教育のための

集中セミナー

日時

2016年5月3日(火)～5日(木)

場所

ホリスティックスペース水輪

長野県長野市上ヶ屋2471-2198

対象

医師・歯科医師
医療従事者
教育者・治療教育者
(シュタイナー教育を実践する方優先)

講師



ミハエラ・グレックラー 医師

ゲーテアナム精神科学自由大学・医学セクション代表
医学博士/小児科医

1946年にドイツのシュトゥットガルトに生まれる。フライブルグとハイデルベルグの大学で独文学/歴史学を学んだのち、チュービンゲンおよびマールブルグで医学を専攻。その後はヘルアック共同体病院勤務、シュタイナー学校学校医を経て現在はスイスドルナッハのゲーテアナム精神科学自由大学・医学セクション代表を務めている。世界中で講演や指導を行っている。

【主催】

日本アントロポソフィー医学のための医師会

【後援】

アントロポソフィー看護を学ぶ看護職の会、アントロポソフィーに基づく絵画・造形療法士の会、一般社団法人シュタイナー教育センター
一般社団法人日本シュタイナー幼児教育協会、音楽療法士の会、日本オリエントミイ療法士協会、日本シュタイナー学校協会

ヴァルドルフ教育とアントロポゾフィー医療が共に役割を担うために

今日、子どもの置かれている状況は大きく変化し、ヴァルドルフ教育を実践している現場でも個人では担いきれないほどの多くの課題を抱えるようになりました。子どもたちの発達、保護者とのコミュニケーション、教師の健康、校医の役割、治療教育の役割、社会状況などといった多様な問題が複雑に絡みあい、多くの課題と日々向き合っていることでしょう。子どもを支える教育と医療は、これから互いに何を深く理解し合っていく必要があるのでしょうか？ 今回、教育者と医療者が共に集まり、教育と医療の協働を考え、実践を見据えた宿泊型集中セミナーを企画しました。

教育の現場と関わっていない医療者の方にとっても、今回のセミナーで、子どもの成長を教育と医学の両面から深く知ることで、子どもと大人の健康・病気、そして、この時代についての深い理解を得る機会になるかと思えます。ゲーテアム医学部門代表のミハエラ・グレックラー医師を招き、子どもの成長の根幹となる「歩く」「話す」「考える」を中心に学び、学びに即した芸術体験、グループワークも行います。グループワークではテーマごとに分かれ、抱えている課題なども素材にして、学びを深め合います。職種や職場を超えた対話によって互いの理解を深め合い、互いの役割と目標を明らかにし、ヴァルドルフ教育とアントロポゾフィー医学のより深い関係性と実践への大きな足掛かりを築きましょう。

タイム・スケジュール

5月3日(火)	5月4日(水)	5月5日(木)
	06:45-07:30 朝食	
09:30-10:30 受付	07:45-08:30 オイリュトミー 石川公子	
10:30-10:45 オリエンテーション	08:45-10:45 「話す」 ミハエラ・グレックラー	08:45-10:45 「考える」 ミハエラ・グレックラー
	10:45-11:00 休憩	
10:45-12:30 「歩く」 ミハエラ・グレックラー	11:00-12:30 「話す」 ミハエラ・グレックラー	11:00-12:00 芸術体験 【オイリュトミー / フォルメン線描 / 音楽(歌唱)】
12:30-14:00 昼食		12:00-13:15 昼食
14:00-15:00 芸術体験 【オイリュトミー / フォルメン線描 / 音楽(歌唱)】		13:15-14:45 グループワーク
15:00-15:30 休憩		14:50-16:00 一日の振り返り
15:30-17:15 グループワーク		
17:20-18:00 グループワークからの報告		
18:00-19:30 夕食		
19:30-21:30 一日の振り返り / 瞑想的修行 ミハエラ・グレックラー		

グループワーク

5/3・4 (15:30-17:15) 5/5 (13:15-14:45)

1	共同体の健康	教育を実践する場では、子どもを中心に、職員や保護者をはじめとした多くの大人たち、運営のための経済、地域社会と行政とのつながりなどすべてが関わります。そこにあるのは人間同士が支え合う一つの有機的な社会であり、一つのコスモスです。このワーキンググループでは、人間個人が集い支え合う学校・幼稚園など教育の場における共同体の健康性について考えてみます。
2	カリキュラム 健康の関わり	ヴァルドルフ教育は、健康への教育と言われているように、実際の身体の発達とカリキュラムは密接に結びついています。この関係性について、教師と医療者がともに深く学んでいく場になりたいと思います。
3	校医/園医の役割	園医や校医は、教育現場で大きな役割があると考えられていますが、協働する機会がまだ少ないため、お互いの専門領域を知る事が大切です。そして、健康生成と病気の予防のために、園医・校医は何かができるのかを教育者と医療者側の両方の立場から考えていきます。
4	多動の子どもたち に対して何ができるか？	幼稚園でも学校教育の現場でも、落ち着きのない、多動といわれる子どもたちが増えています。医師、治療教育家、教師、療法士などの異なる立場から、そのような子どもたちにみられる特徴などを報告し合い、彼らに対してどのような手助けができるのかを共に探っていきます。
5	成人の疾患	どんな大人にも子ども時代があり、どの時代も、今回のメインテーマである、「歩く、話す、考える」を繰り返しながら成長していると言えます。大人に今起きている問題は、どこかの時代の成長の三要素の発達の問題かもしれません。それぞれの経験を持ち寄って、そのような視点で大人の疾患について医療的な、また自己教育の観点から考えたいと思います。
6	学校・園での 治療教育/支援教育	発達や学習、社会・情緒面など、集団生活や学びで子どもが表している状態の理解と意味、その支援と介入の意味について取り上げます。就学前・各学年での治療教育的働きかけについて、医療・療法との連携について、また保護者との協働についてなど、各現場からの問いを持ち寄りましょう。また、シユタイナー教育でのインクルーシブ教育(全体の中でのそれぞれへの支援教育)についても考えます。
7	思春期の課題	第2反抗期という思春期特有の問題だけではなく、近年、反抗期をもたない子ども、低血圧症や低体温、起立性調節障害、ひきこもりなどさまざまな現象を伴うことも珍しくなくなりました。その背後にあるものをアントロポゾフィーの視点で考えてみたいと思います。
8	歩く・話す・考える の内容を深める	子どもの成長である「歩く・話す・考える」を観ることの基本について、医療者と教育者による話し合いを通して内容をさらに深めていきます。療育者養成コースの一部としてグループワークを行います。療育者養成コース以外のメンバーの方も職種を問わずに自由に参加ができます。

芸術体験

5/3・4 (14:00-15:00) 5/5 (11:00-12:00)

1	オイリュトミー	講師：樋原裕子 (オイリュトミー療法士)
2	フォルメン線描	講師：吉澤明子 (絵画・造形療法士)
3	音楽 (歌唱)	講師：平井久仁子 (歌唱療法士)